

京都縦貫自動車道「京丹波わちインターチェンジ開通」から1年
～京都縦貫自動車道の交通状況及び整備効果について～

平成20年9月13日に京都縦貫自動車道の綾部安国寺インターチェンジ（IC）から京丹波わちインターチェンジ（IC）間が開通して1年が経過しました。

このたび、開通後1年間の交通状況と周辺施設の利用状況等がまとまりましたので、お知らせします。

■交通状況（別表1参照）

- 開通後1年が経過した京丹波わちIC～綾部安国寺ICの平均交通量は、
京丹波わちIC～綾部安国寺IC：約2,340台/日（計画の約1.5倍）
- 京丹波わちIC開通後1年間の綾部JCT～宮津天橋立ICの平均交通量は、
綾部JCT～舞鶴大江IC：約3,650台/日（開通前より約19%増加）
舞鶴大江IC～宮津天橋立IC：約3,750台/日（開通前より約17%増加）



- ・開通区間は、普通車250円（休日割引適用時120円）の料金で、約15分の時間短縮効果が得られるお得感もあり、予想を大きく上回る交通量
- ・開通による時間短縮効果に休日料金割引の効果が加わり、京都縦貫自動車道（京丹波わちIC～宮津天橋立IC）全体の利用台数が大きく増加

■周辺施設等の利用状況（別表2参照）

- 京丹波わちIC最寄りの休憩施設である道の駅「和」の入込客数
約73万人（開通前より15%増加）
- 丹後地域の主要観光施設（宮津市3施設、京丹后市1施設）の入込客数
約102万人（開通前より約1%増加）



- ・京丹波わちIC近くの休憩施設・道の駅「和」は、京都縦貫道の利用者増加に直接影響を受け、入込客数が大幅に増加
- ・丹後方面については、道路利用者が増加しているが、これまでのところ観光入込客には変化が見られない

■京都縦貫道を通行する高速バスの利用状況（別表3参照）

- 丹後・舞鶴方面と京都市を結ぶ高速バスの利用者
約6万7千人（開通前より約7%増加）



- ・開通による時間短縮等により高速バスの利便性が向上し、利用者数が増加

【別表1】 京丹波わちIC開通前後1年間の交通量比較

区間名	開通前(H19.9.14~H20.9.13)		開通後(H20.9.14~H21.9.13)		伸び率
	年間通行台数 (台)	日平均 (台/日)	年間通行台数 (台)	日平均 (台/日)	
京丹波わちIC ～綾部安国寺IC	—	—	854,227	2,340	—
綾部JCT ～舞鶴大江IC	1,124,796	3,073	1,330,999	3,647	19%
舞鶴大江IC ～宮津天橋立IC	1,179,089	3,222	1,370,151	3,754	17%

※平成21年8月15日に日最高交通量を記録：13,926台/日（綾部JCT～舞鶴大江IC）
 [開通前の日最高交通量：11,468台/日（平成20年8月12日、上記同区間）]

【別表2】 開通前後1年間における京都縦貫道周辺施設の利用状況比較

	開通前 (H19.9.1~H20.8.31)	開通後 (H20.9.1~H21.8.31)	伸び率
	年間入込客数	年間入込客数	
道の駅「和」（京丹波町）	638,770 人	734,065 人	15%
丹後地域の主要観光施設	1,009,899 人	1,022,855 人	1%

※丹後地域の主要観光施設は、天橋立ビューランド、傘松公園展望台、丹後魚っ知館（以上宮津市）、丹後あじわいの郷（京丹後市）の4施設合計

【別表3】 開通前後1年間における高速バスの利用状況比較

	開通前 (H19.9.13~H20.9.12)	開通後 (H20.9.13~H21.9.12)	伸び率
	利用者数	利用者数	
丹後～京都	26,670 人	29,987 人	12%
舞鶴～京都	35,923 人	37,186 人	4%

【参考】 開通効果と開通後1年間の動き

■開通による時間短縮効果

- ・平成20年9月13日、綾部安国寺IC～京丹波わちIC間（7.7km）が開通
- ・この開通により、従来と比べて時間で約15分、距離で約8kmの短縮効果
- ・京都～宮津・舞鶴間の所要時間も約15分短縮

■料金割引による効果

- ・京都府道路公社では、開通と同時に、通勤時間帯（7～9時、17～19時）割引20%を開始
平成21年7月26日から休日割引約52%を開始
- ・高速道路では、平成21年3月28日から1,000円上限割引開始

京都縦貫自動車道と周辺施設位置図

